

放射性物質分析で共同研究 福大と米国の装置メーカー

2011/08/04 福島民報 2ページ 317文字

福島大は米国の分析装置メーカーの日本法人「パーキンエルマージャパン」と放射性物質の分析などの共同研究を開始した。三日、入戸野修学長と青木睦郎社長が福島市で記者会見し、発表した。

同大は同社の研究員の協力を得て、これまでに県内二百カ所以上で土壌を採取し、分析を進めている。県内全域の河川やプールの水、雨水なども調べ、現状把握に努める。今後分析をより容易にする手法など新技術の開発にも取り組んでいく。

同社は五月に福島大に放射線を計測する三種類の高精度分析装置や消耗品一式(七千二百万円相当)を無償で貸与した。分析装置はガンマ線、ベータ線、アルファ線を測定でき、ヨウ素やセシウムその他、プルトニウムなどの放射性物質を検出することができる。